

児童発達支援事業所における自己評価結果(公)

公表： 2025 年 2 月 10 日

事業所名 マイステージひまわり梅香

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	0	怪我がないように物の配置を工夫しています	2023年1月より事業所移転を行い、さらに安全に過ごせるようになりました
	2	職員の配置数は適切である	6	0	専門職の配置	理学療法士や音楽の先生など多種多様な資格や経験者を配置
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6	0	空間を分けて利用できるようにしている	人数が多い際の対処など、視覚的な情報を取り入れるようにする
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6	0		より分かりやすい視覚情報を取り入れていく
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	0	毎週の業務改善会議	やるべき仕事の明確化を図っています
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	0	個別でのやり取りと共有	情報のフィードバックをおこない、スタッフ全員で改善を行っています
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	0	HPで公表	保護者へはQRコードで配布
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	0	福祉関係に強い人材に評価	外部からの研修時に評価をいただいています
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	0	様々な研修と資格取得支援	スタッフの資質向上のための資格取得支援や研修の実施
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6	0	スタッフでの会議で情報共有	見直しなどを行い、支援につなげています
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	0	大阪市指定の書式	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6	0	専門職が監修し作成	障害特性を理解し、担当を決めてより深く支援内容を決めています
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6	0	一か月に一度は見直し	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	0	療育担当の専門職が対応	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	0	専門性のある療育を実施	様々な意見を取り入れられるように工夫しています
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	6	0	障害特性により、かかわり方を選定	年中までは個別支援で対応。その後は小集団など成長に合わせて実施

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	0	ボードで可視化している	目標と目的を共有し、できるだけ統一した支援をしている
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	0	ミーティングを実施	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	0	記録の徹底	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6	0	1か月に一度の個別支援計画の会議	
関係機関や保護者との連携	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	0	原則、全員参加	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	3	0	時折、研修で呼ぶことがある	もっと、支援者の意見を聞ける場を作っていく
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0	0	特に連携はない	保育園や市役所との連携はあるが、病院などとは連携を行った事例がないので今後改善していく
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0	0	重度の利用者がいない	利用が可能かどうかをスタッフ間で検討して対応していく
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	0	利用情報の共有	支援計画や障害特性など情報共有を図っている
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	0	利用情報の共有	就学時には情報共有を行っている
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	0	障害特性に合わせて、かかり方や対処などの情報共有などを行っている	今後も継続して行う必要がある
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	0		今のところ、交流できる機会はない
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	6	0	子ども部会に参加	施設代表が毎月参加し、情報を共有している
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	6	0	日々のやり取りで実施	定期的な聞き取りを実施していく
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	3	0	必要があれば実施	相手の状況を見て、提案していく
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0		読み合わせを行う

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6	0	チェックリストで管理	計画書を作成時にはチェックを行い、保護者様の意向に沿った計画を立てる

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	0	事業所内相談など	定期的な声掛けで実施しやすい環境を作っている
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	0	パパママカフェを開催	不定期で開催になり、来られるメンバーも固定のため改善が必要
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0	電話やオンライン、事業所など選択肢を準備している	相手に合わせた相談スタイルを作っていく
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	0	毎月の取り組みや行事を配布	わかりやすい資料を継続的に配布できるようにしていく
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7	0	使用許可をとれるようにアンケートなどを実施	個人情報の漏洩が無いようにリストにして管理
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0	視覚情報などの工夫を行っている	音声などほかの支援法も検討していく
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	7		個人情報の観点から保護者様への理解をこれからも深めていく
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7	0	避難訓練などを定期的に実施	マニュアルの作成とともに実施を行っている
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	0	訓練の定期的な実施	療育プログラムでも実施
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7	0	チェックシートの作成	更新頻度の確認を行う
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	0	0	チェックシートの作成	まだ医師との連携はない状態です
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	0	事例ノートの作成	事例検討会を開催し、崔辰予防などに取り組む
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0	研修の実施	オンライン研修の導入
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7	0	研修の実施	事例がないが、架空の事例で検討する機会を多く作っていく。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は事業所全体で行った自己評価です。